

**製品名: AR  $\alpha$ 2C ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07085**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	70kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ADRA2C
別名	ADRA2C; ADRA2L2; ADRA2RL2; Alpha-2C adrenergic receptor; Alpha-2 adrenergic receptor subtype C4; Alpha-2C adrenoreceptor; Alpha-2C adrenoceptor; Alpha-2CAR
遺伝子 ID	152.0
SwissProt ID	P18825
免疫原	抗血清は、ヒトアドレナリン受容体 $\alpha$ -2C 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 336-385

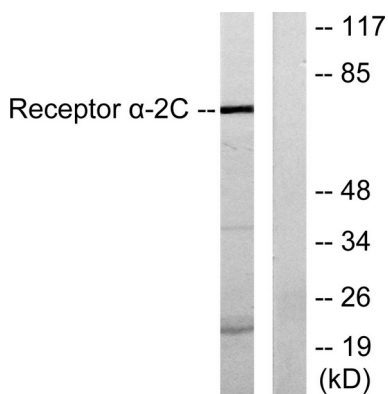
**背景**

$\alpha 2$  アドレナリン受容体は、G タンパク質共役受容体スーパーファミリーに属し、相同性の高い3つのサブタイプ ( $\alpha 2A$ 、 $\alpha 2B$ 、 $\alpha 2C$ ) から構成されています。これらの受容体は、交感神経および中枢神経系のアドレナリンニューロンからの神経伝達物質放出の調節において重要な役割を果たしています。マウスを用いた研究では、心臓の交感神経および中枢ノルアドレナリンニューロンからの伝達物質放出の正常なシナプス前制御には、 $\alpha 2A$  サブタイプと  $\alpha 2C$  サブタイプの両方が必要であることが明らかになりました。 $\alpha 2A$  サブタイプは高刺激周波数における伝達物質放出を抑制しましたが、 $\alpha 2C$  サブタイプは低レベルの神経活動における神経伝達を調節しました。この遺伝子は、コード配列にも非翻訳配列にもイントロンを含まない  $\alpha 2C$  サブタイプをコードしています。[RefSeq 提供、2008年7月],機能:  $\alpha 2$  アドレナリン受容体は、G タンパク質の作用を介して、カテコールアミン誘導性アデニル酸シクラーゼ阻害を媒介する。多型: Del322-325 変異は顕著な機能欠損を示す。アフリカ系アメリカ人では白人に比べて約 10 倍の頻度で認められる (アレル頻度 0.381 対 0.040)。類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属する。

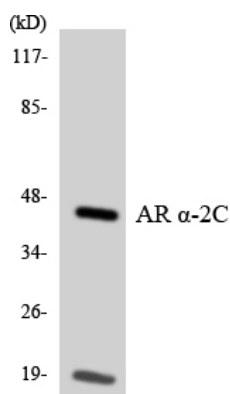
## 研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

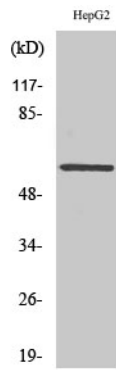
## 画像データ



アドレナリン受容体  $\alpha 2C$  抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



アドレナリン受容体  $\alpha 2C$  抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



AR  $\alpha$ 2C ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析